

栃木県足尾地域での植樹体験とウォーキングを楽しむ 「環境配慮エコツアー」を実施します！

～エコツアーを通じ、沿線地域の環境保全活動を推進していきます～

東武鉄道株式会社
東武トップツアーズ株式会社

東武鉄道（本社：東京都墨田区）と東武トップツアーズ（本社：東京都墨田区）では、沿線地域の自然、歴史、文化などの資源を活用した環境保全活動・地域活性化の一環として、**2016年10月22日（土）、29日（土）に栃木県足尾地域での植樹体験とウォーキングを楽しむ「環境配慮エコツアー」を実施します。**

このツアーは、浅草駅等から特急「りょうもう」号に乗車し、赤城駅到着後バスにて足尾地域に向かい、植樹体験を行うほか、世界遺産登録を目指す「足尾銅山 近代化産業遺産」の見学、7段に分かれて水が流れ落ちる「足尾砂防ダム」周辺のウォーキング等を楽しんでいただくものです。栃木県足尾地域は、明治時代の足尾銅山の煙害による荒廃以降、植樹等による緑化が進められており、本ツアーも同地区の自然、歴史、文化などに触れながら、自然環境保全を考慮してもらったきっかけ作りとするとともに、送客による地域の活性化も図ります。

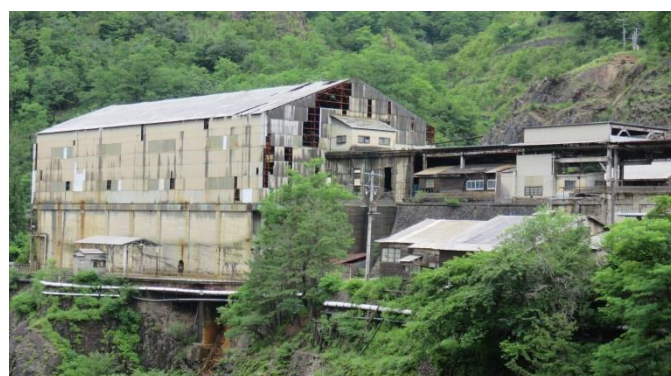
また、ツアーに参加されるお客さまの移動手段である電車・バスの利用で発生する二酸化炭素（CO₂）排出量を、「東武鉄道社有林篠井山林間伐促進プロジェクト」から創出されたオフセット・クレジットを活用してカーボン・オフセットし、CO₂排出量を実質ゼロとします。同プロジェクトは、2013年5月に東武鉄道が栃木県宇都宮市に保有しているスギ・ヒノキといった針葉樹林の間伐を実施し、間伐によって森林が吸収するCO₂吸収量をクレジットとして認証・取得しています。

東武グループでは、引き続き沿線地域と連携し、「自然環境への配慮」「観光振興・地域振興への寄与」等のエコツーリズムの理念に基づいた「環境配慮エコツアー」を開催しながら、自然環境保全や地域活性化に努めていきます。

概要は、別紙のとおりです。



△植樹体験（イメージ）



△足尾銅山 近代化産業遺産の一つである
「本山製錬所」

※お問い合わせは、東武トップツアーズ WEB 販売センター ☎03-5843-9614

本リリースに関するお問合せ 広報担当：TEL:03-3622-6215（野澤・芦澤）

植樹体験とウォーキングを楽しむ「環境配慮エコツアー」の概要について

- 1 名称 「環境配慮エコツアー」
足尾銅山 近代化産業遺産と松木沢ミニウォーキング・植樹体験・水沼駅温泉センター入浴
- 2 発売期間 2016年9月5日（月）～2016年10月26日（水）
※10月22日（土）出発分については、10月19日（水）までとなります。
- 3 実施日 2016年10月22日（土）、10月29日（土）
- 4 発売箇所 東武トップツアーズ各支店
- 5 プラン内容
特急りょうもう3号 浅草発（7：40）、北千住発（7：52）、東武動物公園発（8：16）乗車
→赤城駅着（9：27）、バスにて栃木県足尾地域へ
→到着後、足尾銅山 近代化産業遺産（古河橋・本山製錬所・製錬所大煙突等）※外観見学のみ
足尾環境学習センター見学 ※昼食付
→足尾砂防ダム周辺・松木沢地区ウォーキング（約3km、約1時間）、植樹体験
→わたらせ渓谷鐵道 水沼駅の温泉センターにて入浴
→特急りょうもう44号 赤城発（18：00）乗車 ※車中夕食弁当付
→東武動物公園着（19：16）、北千住着（19：41）、浅草着（19：55）
- 6 旅行代金（発売額、税込）
各出発日 大人9,980円 小人（6歳～12歳）8,980円
- 7 募集人員 各40名（最少催行人員各25名）

以上

<参考>

オフセット・クレジットについて

東武鉄道が栃木県宇都宮市に保有している山林のうち、スギ・ヒノキといった針葉樹林の間伐を実施し、間伐によって森林が吸収するCO₂吸収量をクレジットとして認証・取得しています。

- ①プロジェクト名 東武鉄道社有林篠井山林間伐促進プロジェクト（栃木県宇都宮市）
- ②対象面積 53.3ha
- ③クレジット取得量 797t-CO₂
- ④クレジット取得日 2013年5月29日（木）
- ⑤クレジットの活用 東京スカイツリー®のライティング等で発生するCO₂排出量をカーボンオフセットしています。また、本リリースのエコツアーでも活用します。

※オフセット・クレジット（J-VER）制度について

2008年度に環境省が創設した、省エネルギー機器の導入や森林整備などの取り組みによるCO₂などの温室効果ガスの排出削減量や吸収量をカーボン・オフセット用のクレジットとして国が認証する制度です。なお、J-VER制度は、経済産業省が所管する国内クレジット制度と統合し、2013年度より「J-クレジット制度」へ移行され、J-VER制度によって認証されたプロジェクトは、「J-クレジット制度」に継承されています。

以上